

私の思い出



大出 内川 賀介

戦争の頃の思い出

私が小学校五年の時に、中国との戦争が始まった。私の担任の丸山佐門先生が、召集されて軍隊へ行くことになったことは忘れられない。

先生は教室へ来て、召集令状が来たので、皆さんと別れて軍隊へ行くことになったと話された。突然の話を聞き、女子は泣き出した。そして組中の者が、わんわんと大きな声で泣いた。先生は私達を音楽室へ連れて行き、荒城の月を弾いてくださった。

先生は私の手に握手をしてくれた。あの時の事は忘れられない思い出である。

次は私の小学校からの同級生だった深空出身の武田竹司君の事である。彼は生まれた時に母を亡くし、父親に育てられた。私とは大の仲良しで、よく遊びに来た。一緒に泊まって行った。彼と私は大町中学校へ入学した。昭和16年12月8日、日本は真珠湾攻撃を行い、米英との太平洋戦争に突入した。

戦況が激しくなると、私達中学生にも、海軍飛行予科練修生の募集があった。担任の先生は、皆んな予科練へ行くよう激励した。私達はクラス全員予科練へ行こうと決起した。武田君は予科練に応募し、中学4年で三重航空隊に入隊し、厳しい訓練を受け飛行士になった。戦争が不利になった頃、特攻隊に志願し、昭和20年4月沖繩で敵艦に体当たりして壮烈な戦死を遂げた。海軍の特攻隊の基地は、沖繩県鹿野屋にあった。

私は戦後この基地を訪れ、特攻隊で戦死された写真を見た。何百枚もの中から遂に武田君の写真を見つけた時は、そこを離れることはできなかった。お盆には毎年彼のお墓参りをし、線香を上げ安らかに眠れと祈っている。

私達同級生は19歳となり徴兵検査を受け、合格した者は軍隊へ行った。私は陸軍士官学校を受験し、合格して入校した。3月10日に東京大空襲があった。空襲警報が鳴り飛び起きて見ると、東京の空は真赤だった。この光景を眺め日本は負けるのではないかと、涙が出てきて止まらなかった。

昭和20年8月15日終戦となり、故郷へ帰って来た。四ツ谷の駅から歩いて帰った。家へ入り両親の顔を見た途端、涙が出てきて言葉が出なかった。戦争に負けて帰った悔しさからであった。

戦争は国家の目的の為に尊い命を失うもので、絶対にしるべきではないと思う。

白馬・小谷議員研修懇談会

平成23年11月28日 開催

視察場所

八方文化会館
八方総合資料館

*白馬・山とスキーの総合資料館を視察。

総合資料館長 丸山庄司氏
八方観光協会会長 三枝兼径氏
から開館目的や運営状況等及び展示資料について説明をいただきました。

研修懇談会

ふれあいセンター学習室

*昨今の銀行を取り巻く状況と私が見てきた逆境に立向う企業群

▽講師・・八十二銀行白馬支店

支店長 浅野 弘貴 氏

ピンチな時こそ、知恵を絞り新しい事に挑戦する(せざるを得ない)時で、大きな飛躍の芽をつかむチャンス!

*地域医療体制の確立と地域高規格道路の現状について

▽講師・・長野県議会議員

宮澤 敏文 氏

「地域完結医療体制」や「産業道路と生活道路の分離化」等による緊急医療対応と高速交通網などの確立に向け、格差のない地域づくりを!

白馬・小谷村議員大会

以下決議する。

①地域高規格道路松本系魚川連絡道路早期実現に関する決議

②治山・治水・砂防事業の促進に関する決議

